

「なぜ」に答えられる自分に

「先生、『解き直し』についてのメッセージはまだですか。」
こんな声が聞こえてきそうなくらい、現在メッセージのネタが豊富です。一日も早く知りたい人は、国立氏の本を貸しますので、どうぞ来てくださいね。これも主体性と言えるかもね。

今、委員長面接が行われています。国で言うと「大臣」にあたる委員長を、生徒会執行部が選ぶようとしています。私も同席し、委員長候補者たちの意気込みや考えを確かめています。

今朝は保健委員長立候補者二名の面接があり、保健委員会担当のH養護教諭が質問しました。彼女は穏やかに語りましたが、質問は核心を突く鋭いものだったと私は感心しました。

「二人はこれまで保健委員を務めたことがないと私は記憶していませんが、今回なぜ保健委員長に立候補したのですか。」

「核心を突く鋭い質問」と先に書いたのは、「委員長にふさわしいかどうかはこの質問に対する回答でほぼ決まる」と言ってもよいからです。委員長になった時にやりたいことを列挙するより、「なぜその立場に立とうと思ったのか」が立候補するに至ったモチベーションの強さを表すからです。

まだ早いかもしれませんが、二年生の皆さんには今から意識してほしいことがあります。進路において、具体的に言うところの面接や作文において、最も尋ねられる可能性が高い質問が志望動機です。

なぜ進学を志したのか。数多く高校がある中で、なぜこの学校を選んだのか。なぜこの科(コース)を選択したのか。これらの「なぜ」にどのように答えるかで、進学に対する目的意識、意欲、思いの強さが判断されると言ってもよいでしょう。

まさか「自分の成績だと入れると思ったから」などと答える人はいないでしょうが、それに近い回答をする生徒が過去に結構いました。自分というものがしっかりもていないのですね。

具体的な進路について考える学習は、これから本格的になってきます。今から心配する必要はありません。入れるか入れないかを今から考えるのはナンセンス。なぜそこに進学しようと考えたのかがしっかりと答えられるようにしましょう。「やりたい!」「やらなければならない!」「という思いを日常から大切に、その思いや考えが聞き手に受け入れられるように努力することです。

「やりたい」という思いだけでやれることは、これからほとんど少なくなりません。「やりたい」という思いや考えが周りに認められて、初めてやることのできるのです。「解き直し」について

知りたくて行動に移す人は、やはり学習のモチベーションが高いということでしょうね。

